

# 第5学年〇組体育科学習指導案

令和〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時 校庭  
 児童数 男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名  
 川島町立中山小学校 指導者 〇〇 〇〇

## 1 単元名 フラッグフットボール (ボール運動・ゴール型)

### 2 運動の特性

#### (1) 一般的特性

〇ルールや作戦を工夫し、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競走する楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

#### (2) 児童から見た特性

ゴール型の楽しさや喜びを感じる要因	ゴール型を遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シュートやボールを運ぶことで、得点できた時</li> <li>・チームで考えたことや作戦が成功した時</li> <li>・ゲームで勝つことができた時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこにどのように動いてよいか分からない時</li> <li>・特定の児童が活躍し、ボールに触れられない時</li> <li>・ゲームで負けた時</li> </ul>

### 3 児童の実態

#### (1) 知識及び技能

児童は、これまでのボール運動系の教材を通して、教材に応じたボール操作やボールを持たない動きを経験してきている。ボールを持たない動きでは、パスをもらうために相手のいない場所へ移動することや得点しやすい位置へ移動することのよさを学んできた。しかしながら、そのことを理解していても動けない児童やコートの中でどう動いてよいか分からずに止まってしまう児童も数名いる現状である。

#### (2) 思考力、判断力、表現力等

1学期に行った体力を高める運動では、長縄跳びに自分の工夫を加えて動き作りを行い、目標設定することでねらいにせまる学習を行った。動きをつくる場面では、多くの児童が跳び方や用具の活用などの工夫を取り入れることで、自分の考えを持つことができていた。一方で、何をどのようにしてよいか分からずに自分の考えをもつために、教師や友達の支援を必要とする児童も数名いる。

また、考えることができて、そのことを自分の言葉で他者に伝えることに自信がなかったり苦手意識を感じたりする児童が多い。

#### (3) 学びに向かう力、人間性等

これまでの学習を通して、進んで運動に取り組もうとする児童が多く見られた。また、友達と協力して活動する意識をもつことが少しずつできており、思いやりのある言葉がけも増えてきた。一方で、安全面への意識が希薄な部分があり、周りを見て安全を確認したり声をかけたりして運動に取り組むことが課題である。

### 4 教師の指導観

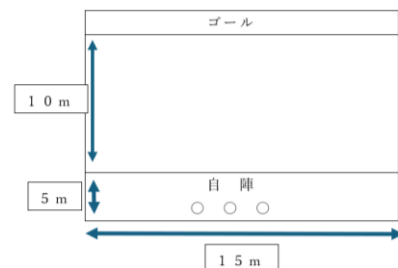
#### (1) 知識及び技能

児童の実態から、全ての児童の「分かってできる」を保障するメインゲームを立案し、ボールを持った時の動き (相手のいない空間を目指して走る) やボールを持たない時の動き (おとりとなる動きやブロックの動き) などが身に付けられるようにしていく。以下に本単元で取り上げる教材について示す。

本単元の教材：ショートキャリーゲーム

#### 【ルール】

- ・攻撃3人、守備2人で行う。
  - ・3回攻撃したら、攻守を交代する。
  - ・攻撃が終わるごとにハドルを行う。(作戦タイムを30秒実施)
  - ・攻撃側は陣地内のみボールを受け渡してよい。
  - ・守備者はゴールラインからスタートする。
  - ※攻撃チームの誰かが1本目の線を出たら動いてよい。
  - ・得点については以下のとおりとする。
- ① 攻撃側が守備者をかわしボールをゴールまで運べたら3点。
  - ② ボール保持者がフラッグを取られてしまったら1点。



上記の教材を通して、フラッグフットボールの「友達と協力してボールを前に前進させる楽しさ」を味わわせるようにする。また、ボールを運べたか運べなかったかのシンプルなルールと得点設定にすることで全ての児童の「分かる」を保障していく。さらにコートの方の広さの奥行きを短くすることで、1回の攻撃にかかる時間を短くし運動機会を増やすことで身に付けさせたい動きを獲得していく。

(2) 思考力, 判断力, 表現力等

本単元では、根拠を明確にして作戦を選ぶことを重点に指導していく。そのために、ゲーム中のハドル(作戦タイム)の時間が重要である。児童の実態から、自分の考えを持ちたり、自信を持って伝えたりすることに苦手意識を感じている児童が多い。そこで、研究主題とも関わって、話合いの流れのプロセスの確立することで、話合いの基礎である声に出して伝える経験を多くできるようにしていく。

(3) 学びに向かう力, 人間性等

児童の実態から、運動をやりたいという思いを大切にしながら、安全面に対しても配慮することができるように指導していく。そのために、運動を行う前に周囲の環境が安全であるかなどを確認することが習慣になるように、ゲーム前に全体で確認をしたり、教師から声かけしたりしていくこと、児童自身が自ら運動の場を整えるようにしていく。また、振り返りの場面で安全面の項目を設定して毎時間意識をもって活動できるようにしていく。

## 5 単元の目標

- (1) フラッグフットボールの行い方を知るとともに、基本的な技能を身に付けることができるようにする。  
【知識及び技能】
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。  
【思考力, 判断力, 表現力等】
- (3) フラッグフットボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたりきまりを守り誰とでも仲よく運動したり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。  
【学びに向かう力, 人間性等】

## 6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>① フラッグフットボールの行い方について言ったり書いたりしている。</li> <li>② 相手に気付かれないように、ボールを運ぶことができる。</li> <li>③ ボールを持つふりやブロックの動作をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① チームの特徴や状況に応じて、作戦を選んでいる。</li> <li>② 攻めや守りの工夫について考えたことを友達に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ゲームや練習の際に、使用する用具などを片づけたり場の整備をしたりすることで安全に気を配っている。</li> <li>② 作戦を考えたり選択したりする場面で、友達の考えを認めようとしている。</li> </ul>

## 7 単元の計画

(中略)

(3) 指導と評価の計画 (8時間扱い) 本時は○印 6 / 7時間 ☆: 研究に関わる手立て

時間	1・2		3	4・5		⑥	7	
ねらい	学習の進め方とゲームを行い方を知ろう		ブロックのしかたを知ろう	ゲームで勝つための作戦カードをつくらう		メンバーや状況に合った作戦を選んで攻撃しよう	これまでの学習を生かして、ゲームをしよう	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習やゲームの進め方</li> <li>安全な場の準備・片付けの仕方</li> <li>ハドル (作戦タイム) の進め方</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロックの仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作戦カードの書き方</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>作戦カードの選び方</li> </ul>		
学習過程	1 集合・整列・挨拶・準備運動をする。 2 本時のねらいを確認する。☆1							
	3 学習の進め方や準備の仕方を確認する。  4 単元の見通しを持つ。  5 試しのゲームを行う。 ハドル☆2  6 ルールの確認と工夫を行う。 ・4年生までの違いをおさえる。	3 ブロックの仕方を 知る。  4 ブロックの動きを練習する。  5 ゲームを行う。 ハドル☆2	3 作戦カードの書き方について知る。  4 作戦カードをつくる。 (修正する。)  5 試しのゲーム ハドル☆2 ※4と5を繰り返す。	3 作戦の選び方について知る。  4 ゲームを行う。 ハドル☆2	4 ゲームを行う。 ハドル☆2  5 学習の振り返りと単元のまとめを行う。  6 後片付けをする。  7 整理運動・挨拶をする。			
	・後片づけをする。 ・本時の振り返りをする ・整理運動・挨拶をする。							
評価計画	知・技	①	②	③			①	
	思・判・表				②	②	①	
	態					②	①	
	方法	観察・ノート	観察・ノート	観察・ノート	観察・ノート	観察・ノート	観察・ノート	観察・ノート
	場面	6・8	4	4	5	4	4	4・5

## 8 研究との関わり

### (1) 研究主題

全 体：【教科横断的な視点に立った授業づくり】

体育科：【主体的に豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成】

### (2) 教科横断的な視点に立った授業づくりの定義

学習の基盤となる資質・能力を幅広く活用できるように、教科と教科を関連させながら育んでいくこと

＜学習の基盤となる資質・能力＞

- ① 言語能力 ② 情報活用能力 ③ 問題発見・解決能力

### (3) 自校の実態から、目指す児童の姿

言語能力の育成に重点を置き、主体的に対話を通して、体育の見方・考え方を深められる児童の育成

### (4) 言語能力とは (学習指導要領 総則編より)

#### ①言語能力を構成する資質・能力

- ・自分の考えを言葉を通じて、伝え合う力
- ・教科書や教師の説明、様々な資料から新たな知識を得ること (知識及び技能)
- ・事象から必要な情報を取り出す (思考力, 判断力, 表現力等)  
自分の考えをまとめる
- ・他者の思いを受け止めながら自分の思いを伝えること (学びに向かう力, 人間性等)

#### ②言語能力の定義

- ・自分の考えを言葉を通して伝え合う力

### (5) 本単元の具体的な手立て

#### 手立て①対話の機会の確保 (☆1)

導入や振り返りの場面で小さな共有と称して、ペアや3人程度の人数で既習事項を確認したり自分の考えを伝え合ったりする時間を意図的に設定する。対話量を増やし、主体的に学習に参画させ、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする態度を育む。

#### 手立て②話し合いのプロセスの明確化 (☆2)

直前の活動のフィードバック → 次の活動の選択 → 根拠の共有 → 声に出す の流れを設定する。こうすることで、直前の活動を個人またはグループで適切に評価し、それをもとに次の活動を選択させていく。さらに、根拠を共有し、それを一人一人が声に出すことによって、活動を自分事として捉えて、考えを形成し深める力の育成につなげていく。

### (6) 他教科との関連

- ・理科「生命の誕生」
- ・総合「お米についての調べ学習」

9 本時の学習と指導 (6/7時)

(1) ねらい

○メンバーや状況に合った作戦を選ぶことができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 準備

ボール、コーン、ビブス、フラッグ、ホワイトボード

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準 △努力を要する児童への手立て)
導入 2分	1 集合・整列・挨拶・健康観察・準備運動をする。	○素早く集合・整列できるよう声かけし、元気な挨拶で学習が始められるようにする。 ○内容を下肢に絞ることで、使う部分を意識して準備運動を行えるようにする。
展開 35分	2 本時のねらいを確認する。 ☆1 一対話の機会の確保	○前時までの学習内容を想起させ、本時へのつながり意識できるように少人数での対話を行う。
	3 作戦の選び方を知る。  4 ゲームを行う。※3 ゲーム実施 ☆2 一話合いのプロセスの明確化	○「メンバーに合った」とは、「足が速い子がいるから」や「ブロックが上手い子がいるから」という視点で作戦を選ぶこととおさえる。 ○「状況に合った」とは、「直前の作戦の良し悪し」を踏まえることとおさえる。  ○ゲームを始める前に、コート上の安全面に確かめられるように声掛けを行う。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">メンバーや状況に合った作戦を選んで攻撃しよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ハドル (話合い) の流れ】</p> <p>直前の作戦の振り返り</p> <p>↓</p> <p>作戦の選択</p> <p>↓</p> <p>根拠の共有</p> <p>↓</p> <p>チーム内で作戦の根拠を声に出して言い合う</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">◆メンバーや状況に合った作戦を選ぶことができる。 (観察・ノート) 【思考・判断・表現】</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">△努力を要すると判断される状況 (C) の児童への指導の手立て ・根拠を声に出すことで、自分事ととらえられるようにする。 ◎十分満足できると判断される状況 (A) の児童の具体的な姿 ・課題を意識した根拠を持って作戦を選ぶことができる。</div> <p>○話合いを観察し、本時の課題を意識して作戦を選択していることを称賛し、その様子を価値付けする。 ○作戦がうまくいっていないチームに積極的にに関わり、作戦カードの中から、本時の課題を意識して作戦を選べるように支援する。 ○選んだ作戦が自分事となるように、チーム全員が作戦を選んだ根拠について、声を出して言えるように促す。</p>
整理 8分	5 用具の片付けをする。 6 学習の振り返りを行う。 7 整理運動をする。 8 次時の予告・整列・挨拶をする。	○安全に気を付けながら協力し、素早く片付けさせる。 ○本時の中で一番有効であった作戦について、体育ノートに記述させる。 ○よく使った部位を十分にほぐすように声かけをする。 ○次時の予告をし、見通しを持たせる。